

# 秩父神社社報 柞乃杜 (ははそのもり) 第 15 号 祝賀記念特別号 平成9年4月15日



神毛モモ  
あらにだり  
ゆかり  
秩父のまち  
栄えます

吉澤

## 新室寿（にひむろほがひ）の歌

父のみの 秩父のさと 母そばのははそのもりに  
高なして そびゆるいらか

あま照らす 日のみかげと きらめきて まばゆき屋形  
いまと吹く 花のあらしに さやさやと さゆらぐとぱり  
おほきみの あまつひつぎを たふとみて ほぎまつる業わざ  
ななどせの ながきとしつき くにびとの こころ寄す業  
このさとを うしはく神と さとびとの たふとぶ杜に  
いまと成る 平成のとの

ふるさとに うまれしままに ふるさとに いたづくままに  
ふるさとを おもひしままに ふるさとに にひむろを建つ

### 反 歌

山峠やまかひに しづまる神おやがみも祖靈おやがみも この新室にひむろに ほがひせよいま



秩父神社宮司  
園田稔



奉賛会長  
井上久

平成の御世を画する践祚大嘗祭をお祝い申し上げた平成二年秋から早くも七年の歳月を数えて、このたび当社畢生の御大典奉祝事業をようやく完遂する慶事を迎える運びとなりました。時あたかも陽氣満ちて万物蘇生の好時節に、謹んで大神さまに大願成就の慶びをご奉告し、併せてご参集の各位とともに慶賀の機会を得ましたことは無上の幸せと存じます。

顧みますと、平成三年の春より昭和の遺産たる当社の諸施設全面改修に着手し、併せて平成の新時代を拓くべき新施設の整備をめざして御大典奉祝事業奉贊会を結成して、実に一万五千を超える会員各位の熱誠あふれるご協賛を得つつ、懸案の計画を所期以上の成果をもって完了することができました。この間、かつてない深刻な経済不況に遭遇したにも拘らず、幸いにも大神さまのご神徳をいただき、また皆さまご関係各位の献身的なご尽力により、幾多の困難を克服して今日このような社容一新的成果を挙げ得たことは、まさしく後世に誇るべき快挙であります。

ただ一つ残念なことに、かねて等しく敬愛申し上げた秩父宮勢津子妃殿下には去る七年の夏に薨去され、折角のこの慶事にご臨席を賜わることが叶わぬ夢となりました。謹んでご冥福をお祈り申し上げると共に、新崇敬会館二階に縁の御品を展示して永く両殿下のご遺徳を偲ぶよすがとし、やがては両殿下お揃いの靈社を創建して秩父宮家を祀り伝える所存であります。

平成御大典を奉祝し記念事業として、三年四月より進めて參りました当神社の境内改修整備事業も新崇敬会館の完工を以ちまして全ての事業が竣工しましたことに大きな嬉びと厚い御礼を申し上げます。

顧みれば六年の歳月、折りしもバブル経済の終焉とその後の低迷する経済状況の下、募財活動も困難をきたしましたが、地元氏子各位の心からなる淨財と、多くの特別崇敬者のご寄進に依り計画以上の事業の完遂に改めて関係各位に深甚なる感謝と御礼を申し上げます。殊に新崇敬会館・斎館の建設に際しましては、秩父總鎮守に相応しく、秩父の建築業界総力挙げての格別なる協力を得て、二年余に亘る工期にも拘らず無事故のうちに、総社の広前を飾り後世に誇れる立派な会館の完成にご尽力賜わりましたことには深く感謝申し述べます。

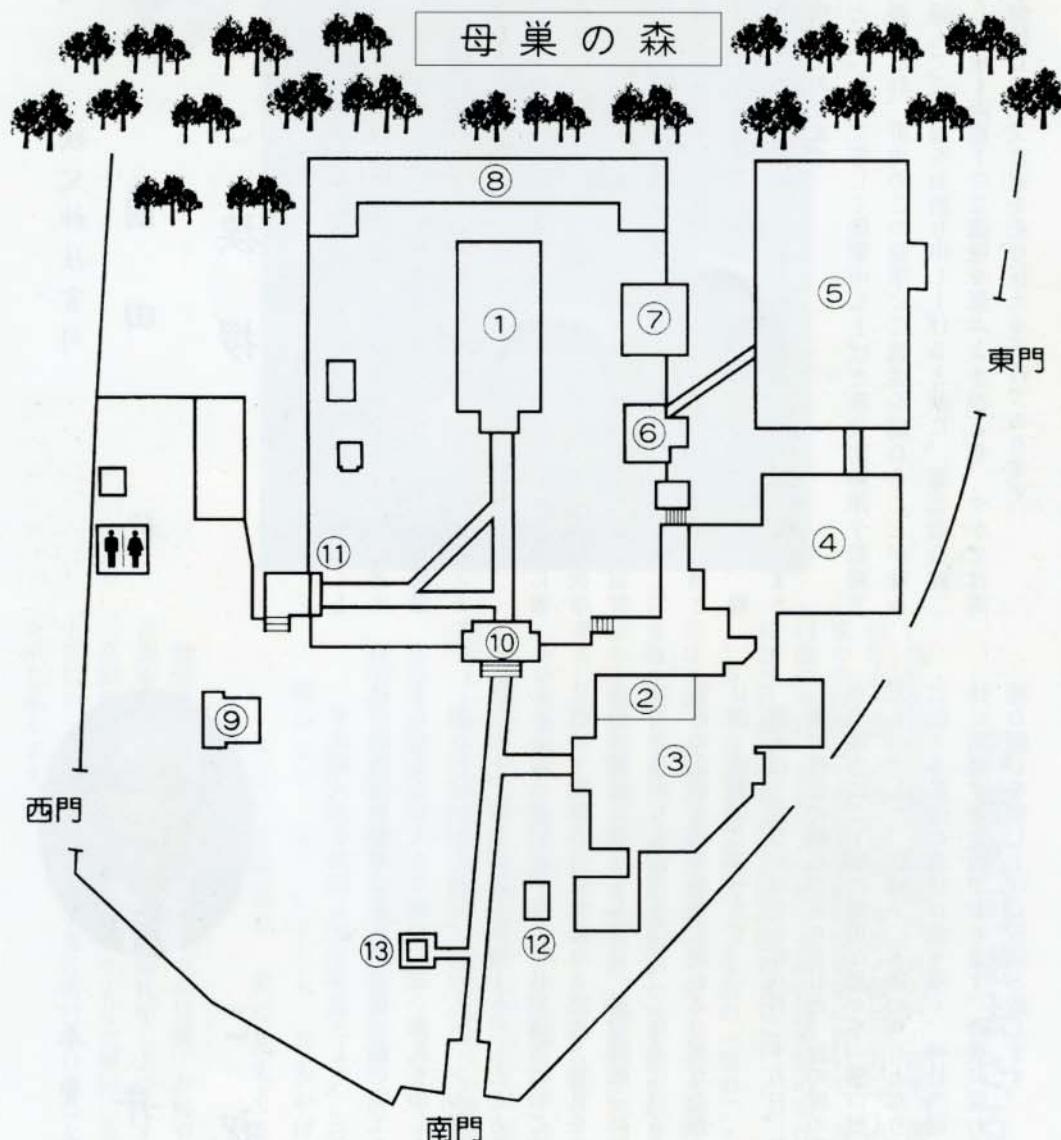
思えば工期なれば七年八月二十五日、秩父宮勢津子妃殿下薨去の報に接し誠に残念の極みでありました。此の度の新館建設の目的には、秩父宮家より当地方にご下賜の貴重な品々を一堂に展示し、広く一般に宮家顕彰を念じたものでした。妃殿下亡き後の今日となりましては、宮家と当社の縁を後世に伝える私達の責任は愈々重く、神社当局と力を協せて祭祀の厳修と神社護持に精進する覚悟でおります。今後其変わらぬご崇敬、ご高配を賜わります様お願いを申し上げご祝辞と致します。

# 平成御大典奉祝事業

第一期 御神門・瑞垣・神楽殿及び神札授与所の全面改修

第二期 旧社務所・参集所の撤去に伴う新崇敬会館の新築とその周辺整備

自 平成三年四月一日 至 平成九年三月末日



① 本 殿

⑥ 神符守札授与所

⑪ 白虎門

② 受付・社務室

⑦ 祈祷殿

⑫ 神馬舎

③ 平成殿

⑧ 末社・額殿

⑬ 手水舎

④ 斎 館

⑨ 神樂殿

⑤ 参集殿

⑩ 中 門



神符守札授与所



神 樂 殿



神 門



旧 神 門

上 崇敬會館  
左下 旧斎館

## 記念事業完遂を祝して

宮司 蘭 田 稔

陽春の氣満ちて若葉の薫る良き時節を選び、いよいよ待望の記念事業完遂奉告祭を迎えることになりました。この慶事に臨むに当たり感慨の一端を申し述べたいと存じます。

顧みますと、去る平成三年六月に「秩父神社平成御大典奉祝記念事業奉賛会」が結成されてより実に足掛け七年の歳月を経て、このたびようやく所期の事業を成就したことになります。この間、奉賛会の役員をはじめ関係各位のご尽力を賜わりましたことにつきましては、当社を代表して衷心より感謝の意を表する次第であります。

今更ながら思いますのに、よくぞこのような大事業が実現できたものと感激ひとしおなものがござります。もとよりこれは、当社大神さまの偉大な御神徳のお蔭とは申せ、わけても当奉賛会を通じた関係各位による格別の御奉賛の大いなる賜物であることは申しますでもあります。古来の至言に「神ハ人ノ敬ニヨリテ威ヲ増シ、人ハ神ノ徳ニヨリテ運ヲ添フ」とありますが、まさしく本事業の成果はその面目をほこす快挙と申せましよう。

そもそもこの事業を思い立ちましたのは、平成二年秋の新帝御即位の大典、すなわち践祚大嘗祭がめでたく斎行されるに当たって全国の

神社界に奉祝の気運が高まり、多くの神社がさまざまな記念事業を起こしたこともありますが、とりわけ当社にとりましては、ほぼ六十年前の昭和天皇即位御大典に際して県社から国幣小社に列格する

という栄誉に浴することが叶い、当時の官社にふさわしく社容を一新して昭和の御世を迎えた経緯もあり、その先例に倣つて平成の御世替わりに再度新しい

時代を切り開くべき境内整備を実現する好機とも見えたからであります。幸いに、地元氏子崇敬者のご理解を得てこの事業を発足したわけですが、時あたかもバブル経済の崩壊に直面して深刻な経済不況に見舞われた最中の事業推進は容易なことではなく、奉賛会の役員各位に非常なご苦労をお掛けし、また事業それぞれを請け負つていただいた関係各社にも採算を度外視したご奉仕を賜わったことにより、なんら計画の縮小や頓挫もなく、むしろ所期以上の成果を挙げて今日めでた



く目標達成の祝賀の時を迎えることができました。

第一期事業としての御神門、神楽殿などの全面改修はともかくとして、第二期事業である新崇敬会館ならびに新斎館の建設については、長いあいだ心中に描き続けてきた当社のあるべき姿についての構想を実現するためにも、この際畢生の覚悟で事に当たらねばと念じてまいりました。そのために、あるいは奉賛会の役員各位には相当のご無理を申し上げ、また設計、施工に関してもさまざまな注文で迷惑をお掛けし、とりわけ事業の事務局を担当した社内職員たちは、事業推進の裏方として無理を承知で心身をすり減らすような難事を命じてまいりました。時には無謀とも独断とも大方の批判を覚悟の上で申し出た希望も数度に及んだことでしたが、幸いなことに多くの面で関係の皆さまの寛容なご理解を得、ようやく今新施設の竣工を目のあたりにして感無量の



けし、とりわけ事業の事務局を担当した社内

職員たちは、事業推進の裏方として無理を承知で心身をすり減らすような難事を命じてまいりました。時には無謀とも独断とも大方の批判を覚悟の上で申し出た希望も数度に及んだことでしたが、幸いなことに多くの面で関係の皆さまの寛容なご理解を得、ようやく今新施設の竣工を目のあたりにして感無量の

こうして平成御大典奉祝記念事業をもって社容一新を遂げたからには、いよいよ秩父總鎮守の名にふさわしい郷土のシンボルたるべく、一層充実した氏神祭祀を心がけると共に新施設を活用した各種の文化活動をもって、地元氏子崇敬者の皆さまばかりか遠来参拝の方々にも常日頃ご神威に触れ心に潤いを得られますように、職員一同心を新たにして神明奉仕に当たる所存でございます。

どうか今後とも変わらぬご崇敬とご支援のほどお願い申し上げます。

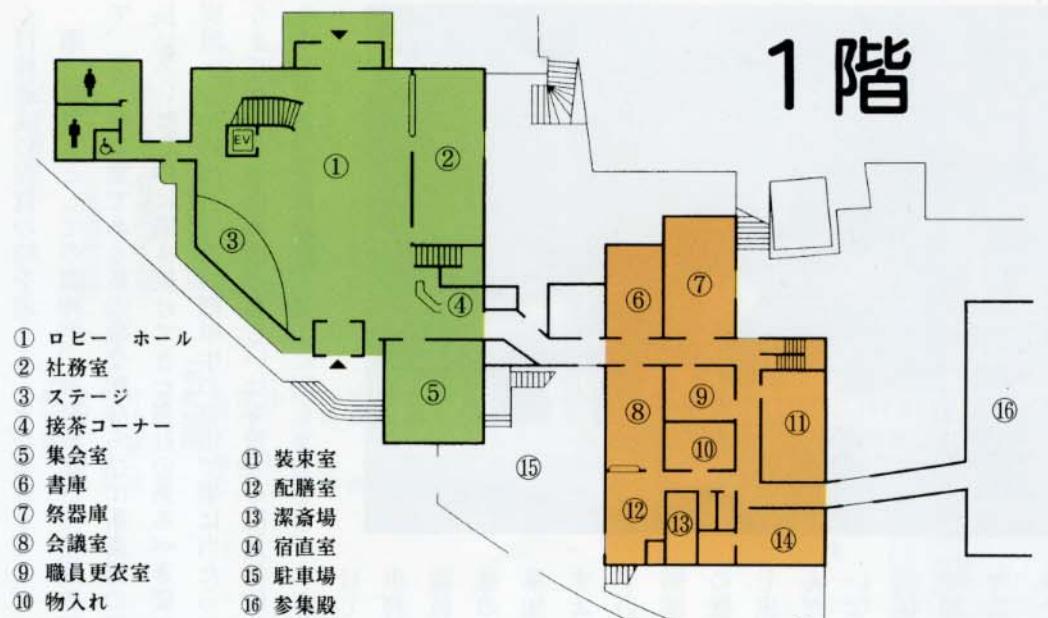
#### 【表紙歌 説明】

昭和四十一年九月二十五日夜半、折りし

も台風二十六号が秩父地方に襲来し、神門そばの大銀杏が幹中ほどから倒れ、社殿の屋根に倒壊寸前までの被害をもたらしました。

これにより昭和四十二年一月二十九日に秩父神社社殿修理委員会が開催され、社殿災害復旧工事と併わせて境域内外整備計画が実施され、およそ五年の歳月を費やして、無事災害復旧工事が完遂。昭和四十七年十月五日に秩父神社復興奉賛事業完成奉祝祭を斎行。その折り、秩父宮勢津子妃殿下に御臨席戴き、御歌を賜わりました。尚、表紙には勢津子妃殿下直筆によります、御歌を掲載させて戴きました。

ものがございます。



平成殿

斎館



ロビー ホール



装束室



社務室



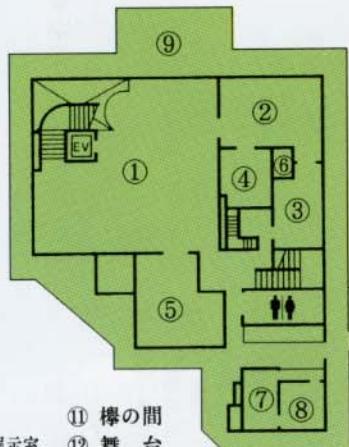
潔斎場



接茶コーナー



宿直室



- ① 展示ホール  
 ② 貴賓室  
 ③ 宮司室  
 ④ 和室  
 ⑤ 秩父宮家常設展示室  
 ⑥ 化粧室  
 ⑦ 水屋  
 ⑧ 茶室  
 ⑨ バルコニー  
 ⑩ 控室  
 ⑪ 檻の間  
 ⑫ 舞台  
 ⑬ 配膳室  
 ⑭ 雲取  
 ⑮ 両神  
 ⑯ 武甲  
 ⑰ 参集殿

## 平成殿



秩父宮家常設展示室

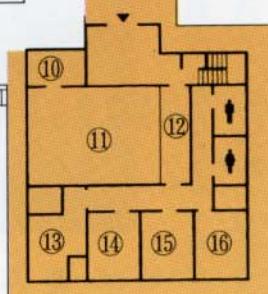


茶室



茶室外観

# 2階



⑯

## 斎館



檻の間



和室 雲取・両神・武甲



斎館南側外観

平成御大典奉祝記念

# 「秩父神社境内改修整備事業」

## ◆奉賛会役員名簿

△会長▽ 井上 久(奉賛会長)

△副会長▽ 柿原雄太郎(大総代)

△理事▽ 新井 浅賀(政治大総代)

△理事▽ 新井 小池(大総代)

△理事▽ 蘭田(秩父商工会議所会頭)

△委員▽ 荒船(日野田地区)

△委員▽ 橋本(野坂地区)

△委員▽ 新井(日野田地区)

△委員▽ 大島(野坂地区)

△委員▽ 萩原(野坂地区)

△委員▽ 加藤(野坂地区)

△委員▽ 新井(野坂地区)

△委員▽ 真下(熊木地区)

△委員▽ 根岸(熊木地区)

△委員▽ 千島(熊木地区)

△委員▽ 加藤(東町地区)

△委員▽ 新井(東町地区)

△委員▽ 平沼(東町地区)

△委員▽ 関口(東町地区)

△委員▽ 岩田(上野町地区)

△委員▽ 岩田(上野町地区)

(本町地区) 大島 孝子

(本町地区) 大島 孝子

(金室地区) 加藤 清次郎

(金室地区) 加藤 清次郎

(相生地区) 宮城 武男

(相生地区) 宮城 武男

(中寺尾地区) 内田 辰藏

(中寺尾地区) 内田 辰藏

大久保国男  
(柞親睦会々長)

(宮側地区) 高山 公夫  
長谷川 正雄  
増田 錄夫  
前元福次郎

(柳田地区) 川田 廣治  
新井征一郎  
加藤達次郎

(別所地区) 横田 幸藏  
井上 利吉  
富田 廣見  
関根 森次

(永田地区) 西 嘉夫  
栗原 昌次  
西 勝藏

(宮崎地区) 黒澤昭次郎  
関口 龟三  
大野喜一郎  
小池 康行

(阿保地区) 島田 源作  
阿保 初夫

(大畑地区) 中村 義一  
山崎 康夫

(滝上地区) 高野 勝盟  
高野 明治

(大野原地区) 堀口 喜市  
堀口 琴次  
荒船 正三  
青野 忠治

(中村地区) 斎藤 愛治  
今井 多市

(上黒谷地区) 若林 正寿  
引間 勝夫  
荒船 正三  
青野 忠治

(近戸地区) 新井 俊一郎  
高橋信一郎

(下黒谷地区) 清野 守二  
関根 輝雄  
荒船 正三  
青野 忠治

(中宮地区) 千島 樂次  
千島 関根

(上寺尾地区) 田口 幸作  
大沢 長寿  
大田 口八郎  
福島 洋

(下宮地区) 山崎 隆三  
高野 文吉  
加藤 定夫

(下寺尾地区) 笠原 茂昭  
佐藤 章一  
笠原 茂昭  
若林 貞夫

(中寺尾地区) 黒沢 豊次郎  
根岸 恒太郎  
根岸 常雄

(中寺尾地区) 田口 幸作  
大沢 長寿  
大田 口八郎  
福島 洋

(金室地区) 新井 信之  
新井 信之

(金室地区) 新井 信之  
新井 信之

(中寺尾地区) 矢尾 直秀  
(秩父商工会議所副会頭)

(中寺尾地区) 矢尾 直秀  
(秩父商工会議所副会頭)

(中寺尾地区) 一柳 俊一  
(秩父商工会議所副会頭)

(中寺尾地区) 一柳 俊一  
(秩父商工会議所副会頭)

(中寺尾地区) 今井 奎吾  
(氏子青年会)

(中寺尾地区) 今井 奎吾  
(氏子青年会)

(下寺尾地区) 東日清治郎 八木 古峰 新作  
 関根 正晴  
 萩田 辰治  
 内田 保  
 島崎 清  
 内田徹太郎  
 (中蒔田地区) 大久保卯惠作  
 富田 幸寅  
 風間 芳朗  
 (上蒔田地区) 岛田 巨宏  
 鎗田 恒明  
 宮前 信雄  
 今井 隆一  
 平野 伸二  
 由夫  
 福島 清水  
 石渡 鎗田  
 坂本 引間彦四郎  
 関根 石渡達之  
 関谷 浅見武太郎  
 町田 始喜  
 (中山田地区) 坂本正一  
 北堀 敬造 德三  
 町田 富雄  
 (下山田地区) 橋本

(栃谷地区)	磯田	利草	浅見	喜七	田端	関根	元治	達夫
(栃谷本地區)	坂本	正夫	内田	博芳	梅澤	正雄	石原	操
(宮本地区)	萩原	暉幸	小久保隆男	長井	時俊	(定峰地区)	宮城	幸男
(新井地区)	永田	嘉昭	富田	義平	(太田下地区)	磯田	浅見	喜七
(小柱地区)	柴崎	志佳	今井	豊平	(伊古田地区)	内田	正夫	坂本
(市川地区)	新井	明	園田	豊	(品沢地区)	萩原	暉幸	萩原
(富田地区)	鶴村	孝芳	関根	菜二	(堀切地区)	長井	時俊	長井
(三津地区)	廣次	八朗	廣次	義平	(太田上地区)	永田	嘉昭	永田
(新井地区)	三津	八朗	豊平	嘉昭	(太田上地区)	柴崎	志佳	今井
(新井地区)	新井	錦志	菜二	孝芳	(伊古田地区)	新井	明	柴崎
(新井地区)	新井	武	関根	孝芳	(品沢地区)	鶴村	廣次	廣次
(新井地区)	新井	幸助	関田	廣次	(堀切地区)	新井	八朗	八朗
(新井地区)	新井	仲司	関田	八朗	(市川地区)	富田	義平	豊平
(新井地区)	新井	黒沢	関田	義平	(富田地区)	新井	嘉昭	嘉昭

（大沼地区）		大堀 宇作
戸塚	政雄	堀口彦三郎
豊田	虎次	浅見 岩司
寺沢	勇	村山 登次
（旭地区）	江田 福島 島田 武田 島田 武男	（旭地区） 江田 福島 島田 武田 島田 武男
（巴地区）	謙藏 知親	謙藏 知親
（森川地区）	石川嘉代治	（森川地区） 石川嘉代治
（南地区）	浅見 重之	（南地区） 浅見 重之
（三沢地区）	児玉 長吉	（三沢地区） 児玉 長吉
横田	清	（三沢地区） 横田 清
英夫		英夫
柳沢	卓夫	柳沢 卓夫
（顧問税理士）		（顧問税理士）
浅賀	勝彦	浅賀 勝彦
山中	雅文	山中 雅文
（氏子青年会）		（氏子青年会）
（埼玉県知事）		（埼玉県知事）
加藤	卓二	加藤 卓二
土屋	義彦	土屋 義彦
（衆議院議員）		（衆議院議員）

◆ 募財委員会名簿	▲相談役▼
▲委員長▼	栗原 稔 (県議会議員)
小池 清	井上新一郎 (県議会議員)
	山口 仁平 (県議会議員)
	内田 全一 (秋父市長)
	富田 孝 (横瀬町長)
	栗原 隆 (秋父セメント㈱社長)
	仁杉 嶽 (西武鉄道㈱社長)
	宇野 潤 (秩父鉄道㈱社長)
▲事務局▼	浅見 武史 (瀬 宜) (権瀬宜)
	新井 直行 (権瀬宜)
	前原 利雄 (権瀬宜)
	大澤 孝 (権瀬宜)
	枝窪 邦茂 (権瀬宜)
	新井 君美 (権瀬宜)
	岩田 勝宏 (権瀬宜)
	守屋 通夫 (権瀬宜)
	甲田 邦茂 (権瀬宜)
	塩谷 豊治 (権瀬宜)
	昌子 (出 仕)

◆建設小委員会	◆建設委員会	◆委員長▽	◆副委員長▽	◆委員▽	◆委員▽
井上 久	新井 一夫	宮前 洋一	浅見 武太郎	高橋信一郎	矢尾 直秀
新井 久	坂本才一郎	松本 真一	宮前 洋一	洋	
坂本才一郎	一柳 俊二	斎藤 信介	井上 久		
丸岡 只一	坂本才一郎	高橋信一郎	小池 清		
土屋 格男	蘭田 稔	矢尾 直秀			
蘭田 稔	淺見 武史	一柳 俊二			
浅見 武史		坂本才一郎			

◆募財委員会名簿

\*奉賛会役員名簿は、平成六年四月現在の名簿を掲載させて戴きまし  
た。



新斎館の竣工を祝して  
彩の国・名工社長 坂本才一郎



崇敬会館・新斎館の  
設計監理を担当して  
丸岡設計社長 丸岡只一



竣工に当たり  
建築会長 高橋信一郎

新装なった会館を挙げ感無量であるが、なかでも神社境内の東側を継続する秩父駅前土地区画整理事業による中員十六米の道路には社殿災害復旧工事中であったので宮司様から御相談を受けたので次第にめりこんでいた。

鳥居の東側外部の石垣から細い路地が駅に向い、この路地の両側に飲食店が軒をつらね所謂「宮森マーケット」と呼ばれ賑わっていた。

神門前の広場（外苑）の南側は道路に沿って約二メートル後退することが土地区画整理事業の計画路線で変更できないとのことであった。

また之等の工事は社頭の美觀に関するので修理事務所に設計施工を一任され、神社として譲歩出来るぎりぎりの線で計画したが猶大前にあった制札を石垣上に配したり、鎌倉時代様式の悠然と構えた狛犬前に余裕がなく、社頭の莊嚴性が薄らいだ事は、今でも残念でならない。

一方、東側の番場通線（巾員十六米）は神社でも膨大な社地を道路に提供するので、なかなか元代会でも決定しなかったよう、結局開通したのは社殿の修理工事完成であった。

道路が開通すると神社では道路沿いに現在の參集殿を新築したが、これが予想以上の好評で多くの人に利用された。ついで対岸に祭会館がオープンすると、年間十四万もの人達が押しかけて名実とともに秩父の観光の拠点となつた。

それに加えて秩父駅に秩父地場産センターが開館し、日々多くの観光客で賑わっている。

これで神社周辺の観光施設は出揃ったと思われる。この時期に周辺の状況をよく把握し、日本屈指の秩父祭を司祭する神社にふさわしく、時代に即応した会館の竣工をみたことは、工事関係者の一人として望外の喜びである。

建物はよく朱に映えて社頭の景觀にもよく調和し、今後は崇敬者に広く利用されて、当社の益々の御發展を心より祈念し、併せて工事中御世話になつた各位に衷心より感謝し末尾と致します。

父建業会の皆さんに感謝を申し上げて筆をおきます。

このたび平成御大典事業の一つである崇敬会館・新斎館建設工事の設計監理の御下命を戴き地元設計業者の所属する埼玉県建築士事務所協会秩父支部が契約させて戴きました。

実務につきましては会員のオーツカ設計、（有）新井建築事務所に協力を戴き当社丸岡設計のもてる知識能力を頼注し一年有余の間努力して來ました。お陰様で大過なく無事に工事の完了をみました。これも神の御加護と関係皆様の御後援、御鞭撻と感謝いたしております。

かえりみますと私個人としましても、秩父神社様には格段の御高配を戴いておりまして、祖父より三代にわたり、神門、神殿、本殿大改修、參集殿と参画させて戴

き、またこの度の大事業への参加と、感激この上ない次第であります。

蘭田宮司様には、この度の設計につきましては、基本計画より豊富な見聞より得られた知識と卓越した能力で御指導を戴き、新しい神社、神域、また氏子と一体として考え協調する秩父神社総合計画の方向を監修者の坂本先生とともに御提案かつお示し下さいました。

実施計画及び監理については監修を戴いた坂本先生には時代考証とともに他の建物とのつり合いなど、色調、手法等についても細部にわたり御指導を戴きました。

私事になりますが、建築に携わって四十五年を経過しました。当社も祖父丸岡治助創業百年の節目にあたり、この名譽ある事業にかかわり合うことを得て、また無事お引渡しのできることをこの上ない喜びとし、また今後の輝としたいおもいます。

おわりに工事中苦楽を共にして戴いた工事関係者と秩父建業会の皆さんに感謝を申し上げて筆をおきます。

平成の御大典を祝い、計画されました新崇敬会館並びに新斎館の建設工事が、無事竣工の運びとなり、その落成祝賀の式典が下郷笠鉢の八十年振りの鉢を付けた笠鉢奉曳、飾り置き、というイベントを付け加え乍ら行なわれる。施工担当者として最高の光榮であり、幸福感に酔い痴れている処であります。

私の建業会という団体は、秩父公園の一角に（現在は聖地公園内）東日本一と称される聖徳太子顯彰碑を建立した秩父職工組合の流れを汲む、秩父市内の建設業者の集まりで、今でも欠かすことなく毎年顯彰碑前で聖徳太子祭を斎行している者の集まりです。

今回この奉祝事業に致しましても、事業計画を耳にした段階から、この仕事は個々で担当すべき性質のものではなく会員全員が氏子である「建業会」が会を挙げて取り組むべき仕事であるとの意志で統一され、その旨を神社側に申し入れさせていただきました。

幸い宮司様、奉賛会長様を中心とする神社側のご理解を賜わり、秩父匠のシンボルとも言うべき坂本才一郎先生の監修、当会員である丸岡さんを中心とした設計事務所協会の手による設計、そして施工、建業会と言う理想的な体制で着手する事が出来ました。

その施工途次に体験した上棟式は生涯の思い出に残るものとなりました。

古式に則った上棟式として、全員が装束に身を包み、検尺から槌打ちに至る慣れない所作に汗を流し「エイ、エイトー」の掛け声と共に深く脳裏に刻み込まれたものと思います。工事施工に当たりましては、会員一同その持てる技術を傾注し、安全に配慮しつつ誠心誠意取り組ませていたと思います。どうか今後は新装なりました、この建物を大きまし。どうか今後は新装なりました、この建物を可愛がついていただきます様お願い申し上げ、会員を代表しての御礼挨拶と致します。



崇敬会館・新斎館

## 竣工に思う

氏子青年会々長 鈴木 建志

平成二年十一月、国を挙げて奉祝いたしました新天皇陛下の御大典を記念し、御神門・瑞垣・神楽殿・神札授与所等の改修工事にはじまり、多くの方々のありがたい御淨財で崇敬会館・新斎館の建設に着工でき、本年事故もなく竣工となりましたことは、氏子のひとりとして大変嬉ばしく感じております。

申すまでもなく、秩父神社は、地元氏子はもとより、県内外からも多く崇敬者が集い地域文化の一端を担いつつ、文字どうり秩父地方の総社として栄えてまいりました。

古くから、人々の拠どころであった柞の杜の一角に、人的心を育む拠点として、崇敬会館が竣工したことは、大変意義深いことと思います。この会館を、氏子の交流の場として崇敬者の憩いの場として、地域文化の伝統を重んじ、新しい時代に向けて中心となるよう広く活用することにより、名実ともに「立派な会館」と呼ばれ親しまれる建物になると思います。私ども氏子青年会も大いに利用させていただき、多くの崇敬者の皆様と共に、秩父神社に集う人たちが、平和で豊かな生活が続けられますよう寄与して行きたいと考えております。

最後になりましたが、秩父神社が「我が街の氏神さま」として、また、人ひとの心の拠どころとして末永く敬愛されることを祈念いたしまして、お祝いのご挨拶とさせていただきます。

## 秩父神社御大典奉祝事業

## 奉賛者御芳名 (9)

自 平成八年七月一日 至 平成九年三月三十一日現在

(敬称略・順不同・但し金一万円以上奉納者)

## 東町地区

正田歯科医院  
金三十万円株式会社  
金二万円大塚和信  
金五万円向井建築  
島崎文子若林静一  
宮司笠原忠男

## 桜木町地区

正田歯科医院  
金十萬円  
久米常次株式会社  
金二万円  
(株)ダスキンちちぶ  
(株)大場建設  
新井言明長谷川祐一  
浅見登志夫  
新井言明

## 近戸地区

正田歯科医院  
金一萬円  
浅見利恵株式会社  
金二十万円  
佐々木宗昭  
堤清二小栗英夫  
新井言明

## 久那地区

正田歯科医院  
金一萬円  
大森誠一株式会社  
金二十五万円  
萩野寛次郎  
横田美江新井武平商店  
武藏観光㈱

## 神社拝奉賛金

群馬県神農街商協同組合  
金百萬円昭和通運㈱  
金二十万円  
小林キヨシ横瀬町担ぎ石保存会  
(株)佐藤ペイント

## 金五十万円

山口組  
(株)丸岡設計本多敏子  
町田久雄

## 金五十万円

秋父湯元  
杉山俊雄  
(有)キタノ産業

## 金五十万円

武甲温泉  
政治

## 金五十万円

柳川淑子  
(神社扱)

## ■追加奉納のご報告

(15頁上段へつづく)



## 名誉宮司逝去さる

当社名誉宮司 薗田武男翁は二月六日の夜半、俄に体調を崩され急逝されました。行年九十歳。八日に密葬。本葬ノ儀は二月二十六日午後一時より、秩父神社・薗田家の合同葬にて当社參集殿特設会場に於いて、斎主 神社本廳長老、寶登山神社宮司横田茂氏、祭員伶人は秩父支部会員多数の奉仕により斎行されました。葬儀委員長は当社奉贊会長井上久氏が務めました。

二月二十六日と云えば六十一年前の「雪の二・二六」が想起されますが、名誉宮司は当時、日枝山王社に奉職中でありこの大事件を身近に体験されました由、奇しき縁を感じるも、この日は春を思わせる穏やかな日和に恵まれ、神社本庁統理様を始め大勢の会葬者の参列を賜わり、葬場祭、告別式がしめやかに斎行することが出来ました。

その日の埋葬ノ儀に際しては、彩の国・名工會々長 坂本才一郎氏に依る上興(アゲコシ)、四神旗が調べられ、六十有余年、只管宮仕え一筋に勤まれました名誉宮司を送るに相応しい厳かなる葬列も整い、宮司家累代の奥都城に静かに埋葬がなされました。

宮内庁御歌所寄人  
國學院大學名誉教授 岡野弘彦氏の挽歌

齡みちて 清くいましし おもかげは  
きさらざ晴るる 空に見えくる

御靈前に寄せられました多くのお見舞、お悔やみの言葉を賜わりましたことに深く御礼申し上げます。  
合同葬に際し、御靈前に賜わりました榊料、玉串料生花料の一部を御大典奉祝事業に寄付されましたことを申し添えます。



(13頁下段より続く)

金五万円(計十万円)

(大野原地区)今井菊代

金五万円(計二十万円)

(神社扱)秩父漁菜市場

諏訪神社敬神者一同

金七十万円(計百万円)

(神社扱)ホテル美やま

金三十万円(計三十万円)

(上黒谷地区)和銅鉱泉旅館

金十萬円(計二十万円)

(神社扱)葛城神社

金五万円(計十五万円)

(神社扱)山本博

金二十万円(計三十一万円)

(神社扱)富永芳啓

金十万円(計六十万円)

(神社扱)金子敬治

金六万円(計三十七万円)

(神社扱)入江美杜蒲

金一万円(計五万円)

(神社扱)西村善作

金三万円(計十一万円)

(神社扱)温旧会秩父神社講

金五万円(計十万円)

(大沼地区)小池八郎

金七万円(計十万円)

(柳田地区)吉川恵二

貴賓室応接セツト寄贈

島崎株

## ◆什器備品奉納者

什器備品料 金八百万円奉納

建宗会

貴賓室応接セツト寄贈

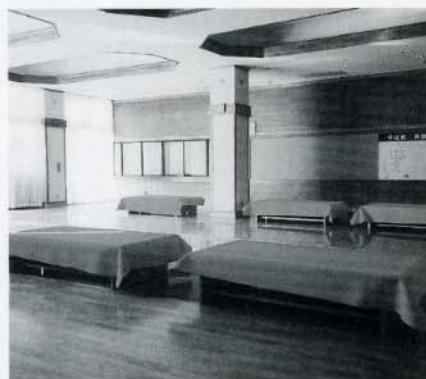
島崎株



カーテン寄贈 今重インテリア



貴賓室応接セツト寄贈 島崎株



長椅子16脚寄贈 株 勅使河原工芸

什器備品料 金百万円奉納

㈱電成社・共和電機㈱・ソーセツ(株)

カーテン寄贈

今重インテリア

長椅子16脚寄贈

株 勅使河原工芸

宮司室 デスクセット寄贈

絵画「武甲山春雪」画 浅見嘉正

浅見嘉正

絵画「奥秩父錦秋」画 大野 登

大野 登

什器備品料 金三十万円奉納

秩父神社氏子青年会

什器備品料 金十六万円奉納

ふくろうの会

中村講 平成八年九月十四日参拝

高橋信一郎講元外四百六十八名

右の二講社が、平成八年度新たに発足

しました。以後とも宜しくお願ひ致しま

す。

◆前原利雄権柄宣  
神職身分二級昇進のこと  
この度、蘭田 稔宮司におかれでは神社本廳より神職身分二級昇進となり、三月十九日埼玉県神社庁に於いて伝達式が行なわれた。

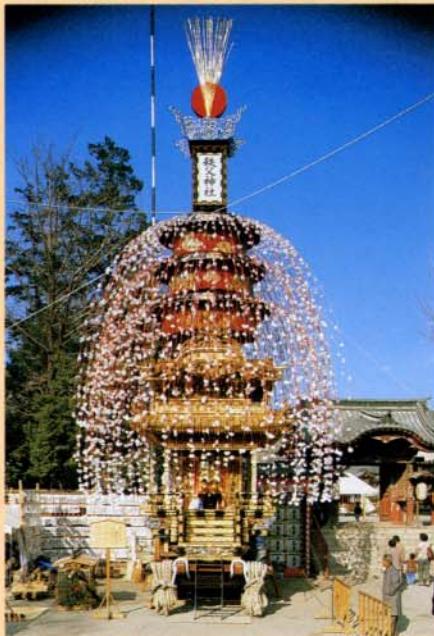
◆蘭田 稔宮司  
神職身分二級上昇進のこと  
前原利雄権柄宣は二月一日付で神社本廳より神職身分二級昇進となり、二月十七日埼玉県神社庁に於いて伝達式が行なわれた。

ふくろう  
梟だより



職員辞令	
巫女	新井咲野
巫女	森前淳子
浅見麻衣子	(三月三十一日付)
新井 瑞穂	巫女見習を命ず
(四月一日付)	巫女見習を命ず

## 下郷笠鉾特別公開



秩父神社崇敬会館及び斎館完成祝賀行事に併せて三層の花笠を付けた重要有形民俗文化財「秩父祭屋台」下郷笠鉾が特別公開された。長い伝統を誇る下郷笠鉾は、国、県及び市の補助を受け、水引幕（一層・波紋、二層・双龍、三層・瑞雲）・腰幕を昭和六十三年度復元新調、標木を平成三年度復元新調、更に土台柱を平成八年度に復元新調し、一連の改修工事を無事終了。

これにより、下郷笠鉾特別公開実行委員会が発足し、文化財公開の義務と新崇敬会館の完成祝賀行事に併せて、秩父神社下境内に四月十二日より組み立て飾り置き、四月十五日には電線の埋設工事の完了した本町通り・宮側通りの曳き廻しが行なわれた。昭和六十一年に、神社下境内に飾り置きされ、短い距離を奉曳されたが、この度のように、長い距離を曳くのはおそらく八十年ぶりの事だと言われる。

右のお方より絵画の寄贈がございましたのでご紹介致します。私の小さい頃は緑豊かな山容で村を見守るようになっていた。又、日本武尊が戦勝を祈願して武具甲冑を岩の中に納めて、これが「武甲山」と名づけられたという由来なども、雄々しい山の容姿と相まって、私に一つのロマンを感じさせた。

そして埼玉師範に進み、浦和の寮時代には故郷の山としての武甲山が懐かしく、子供の頃の武甲山様のお祭のことなど思い出され、帰郷したときは、よくスケッチブックを持って出かけたものであった。

最近の武甲山を眺めていると、いつも思い出す油絵がある。それは石井柏亭画伯の「山河在」だ。その絵を見たのは戦後第一回日展であったと思う。画面は滔々と流れる川、その上に深い新雪の山脈そして深い夕焼

秩父神社崇敬会館及び斎館完成祝賀行事に併せて三層の花笠を付けた重要有形民俗文化財「秩父祭屋台」下郷笠鉾が特別公開された。

長い伝統を誇る下郷笠鉾は、国、県及び市の補助を受け、水引幕（一層・波紋、二層・双龍、三層・瑞雲）・腰幕を昭和六十三年度復元新調、標木を平成三年度復元新調、更に土台柱を平成八年度に復元新調し、一連の改修工事を無事終了。

これにより、下郷笠鉾特別公開実行委員会が発足し、文化財公開の義務と新崇敬会館の完成祝賀行事に併せて、秩父神社下境内に四月十二日より組み立て飾り置き、四月十五日には電線の埋設工事の完了した本町通り・宮側通りの曳き廻しが行なわれた。昭和六十一年に、神社下境内に飾り置きされ、短い距離を奉曳されたが、この度のように、長い距離を曳くのはおそらく八十年ぶりの事だと言われる。

## 絵画寄贈報告

上宮地町にお住まいの今井多市様から寄贈して戴いた、「奥秩父錦秋」大野登作一点。坂水にお住まいで、社報第14号の表紙も描いて戴いた画家浅見嘉正先生から寄贈して戴いた。

「武甲山春雪」

右のお方より絵画の寄贈がございましたのでご紹介致します。

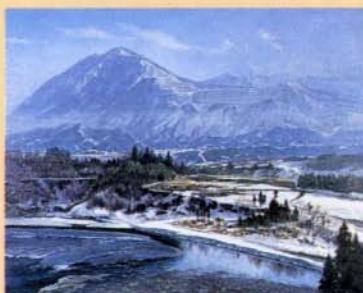
また、浅見先生におかれましては、奉納画に次のようなお言葉も添えて戴きました。

武甲山は秩父山塊を代表する山の一つである。

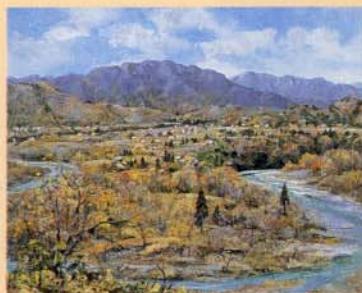
私の小さい頃は緑豊かな山容で村を見守るようになっていた。又、日本武尊が戦勝を祈願して武具甲冑を岩の中に納めて、これが「武甲山」と名づけられたといふ由来なども、雄々しい山の容姿と相まって、私に一つのロマンを感じさせた。

そして埼玉師範に進み、浦和の寮時代には故郷の山としての武甲山が懐かしく、子供の頃の武甲山様のお祭のことなど思い出され、帰郷したときは、よくスケッチブックを持って出かけたものであった。

最近の武甲山を眺めていると、いつも思い出す油絵がある。それは石井柏亭画伯の「山河在」だ。その絵を見たのは戦後第一回日展であったと思う。画面は滔々と流れる川、その上に深い新雪の山脈そして深い夕焼



「武甲山春雪」



「奥秩父錦秋」

編集発行	秩父神社社務所
〒360-8568	埼玉県秩父市番場町1-1
TEL (西回)	049-231-0262
FAX (西回)	049-241-5596

印刷所  
〒360-8568 秩父市東町二七一八

## 編集後記

雲が描かれている。国敗れても山河在りの画伯の思いに深く心を打たれた。平穏な生活のなかにも故郷の景観は年を追うように変わってきている。私も随分長いこと武甲山を描いてきた。傷だらけになつていて戴いた画家浅見嘉正先生から寄贈して戴いた。

坂水にお住まいで、社報第14号の表紙も描いて戴いた画家浅見嘉正先生から寄贈して戴いた。

■ 平成三年四月より進めて参りました御大典奉祝記念事業元遂奉告祝賀会に、特別公開の下郷笠鉾がはなを添え、また予祝のはなである桜も、ほのかに色付く季節となり、ここに社報「作乃杜」第十五号記念祝賀特別号をお届けします。

■ 平成九年一月に、建物の引渡しをこの平成九年一月に、建物の引渡しを待ちまして全ての事業が完遂し、ここにお祝いの日を迎えることができました。これも偏に、皆様方からの多大なる御淨財御寄進、そしてご協力を戴いたものと神社職員一同深く感謝申し上げます。

■ この事業の完遂は一つの節目であり、これからが本当の意味での、秩父地域の発展、文化の発進基地また交流の場となることを願うものであります。